

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 5 年 2 月 1 日

事業所名:多摩市ひまわり教室

配布数:16名 回収数:15名 回収率:93%

		チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	53%	47%	0%	過敏なお子様もいるため、エリアをマットで分けたり、カムダウンの部屋を設けています。ベランダなど「動き」の大きい場所では時間制や人数制限を設けて事故防止に努めています。	人数に対してトイレや玄関の狭さなど気になる箇所はありますが、アイデアを出し合って行きたいと思います。 注:指定基準の約3倍の広さに加え、ベランダ、広場があります。
	2	職員の配置数は適切であるか	47%	53%	0%	国基準に東京都の加算を入れると、定員27名のひまわりは職員数が7名(1日当たり)となっておりますが、多摩市は9名として予算化しています。また、職員の病休や研修、出張等を想定して毎日11~12名(心理STOT、音楽は含まず)を雇用しています。	お子様のその日の様子や場面によってはスタッフ数が足りなく感じますが、活動内容や環境の工夫等によりよい支援を目指します。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	80%	20%	0%	セラピーマットを活用し、各スペースの使い方を分かりやすくしています。 一人ひとりマークを決め、個別の場所(ロッカーやタオル掛け等)につけることで、自分の場所が分かるように配慮しています。	個々の特性に対応しきれていない部分もあり、更に個別に配慮した「意味が分かる」環境調整を実行します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	60%	40%	0%	朝、夕の室内消毒、玩具の消毒、掃除を毎日実施し、衛生に努めています。 年4回業者による床清掃を多摩市の依頼で実施しています。 ロスナイ換気を有効に使い、風の流れが悪い廊下と窓のない部屋はサーキュレーターを設置して換気を行っています。	感覚面に配慮が必要なお子さんに対し、適切な支援や環境を提供できるように検討しています。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	53%	47%	0%	これまでは業務のスリム化や現場スタッフの確保を目的に管理職が行ってききましたが、一般スタッフが参画する部分を少しずつ増やしています。	今後もボトムアップの力を向上していくことを目的に、役割分担の見直しをして参画する場を増やします。 非常勤スタッフは15時までの勤務であるためCAの面で難しさがあることが課題です。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	87%	0%	13%	要望については会議で検討し、要望とその対応を一覧表にまとめて保護者に配布しています。	今後とも意見をいただきながらサービスの向上に努めます。また、いただいたご意見とその対応は発達支援室と共有します。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	74%	13%	13%	毎年2月にホームページで公表しています。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	93%	7%	0%	実施主体の多摩市の計画により、3年に1回第三者評価を受審しています。	第三者評価機関以外にもSVやオンブズマンの訪問など外部評価を導入しており、指摘事項については改善に向けて取り組んでいます。

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 5 年 2 月 1 日

事業所名：多摩市ひまわり教室

配布数：16名 回収数：15名 回収率：93%

		チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	93%	7%	0%	法人全体会、サポーターズカレッジ(パッケージ講義)、児童分野合同、各委員会主催研修、東京都整備事業受託研修(年11回)、事業所内事例検討会(年6回)、勉強会(リスクマネジメント、普通救命、安全運転、発達等)、外部各種研修(発達、摂食、感覚、保育他)を実施しています。	1年目スタッフは集中的に数多く研修を組み、2年目以降は自薦推薦により受講を行っています。サポーターズカレッジはいつでもどこでも受講できる仕組みです。事業所内での研修は開催時間がタ方のため、常勤を中心に実施していますが、ケア会議や音楽会議は非常勤も含めて実施しています。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	87%	0%	13%	個別支援計画の各項目(大項目4、小項目10)毎にアセスメントを実施し、「見立て」と「今必要な支援」を、丁寧に、分かりやすい文章で記載することを心がけています。	多岐に亘る業務の中でも個別支援計画作成は非常に重要であり、作業にかかる割合も高くなっています。書式の一部変更等を進め、且つ効率的・効果的に作業を進めます。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	80%	13%	7%	入園時に心理・ST・OTの担当者による評価を実施し、必要に応じて1年後に再評価を実施しています。法人共通のアセスメントシートを作成しました。	法人共通のアセスメントシートは、今後ブラッシュアップしていきます。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	67%	13%	20%	「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」に対応した項目(大項目4、小項目10)、保護者の希望、地域との連携の項目を取り入れ、ねらいと支援内容を設定しています。	日々のクラス療育や個別療育、発達検査等を通し、子どもの適切なアセスメントのうえで、ねらいと必要な支援内容を設定していきます。そのため、日々の振り返りや専門職のフィードバックの時間を確保し、充実を図ります。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	93%	0%	7%	月案や日案を作成する際には、個々のねらいに添った支援ができるように、活動内容とグルーピング、課題の個別的な準備を行っています。	引き続き、個別支援計画に沿った支援を提供するとともに、子どもは日々発達していくという観点から、アセスメント力を向上させることで、子どもに必要な支援を提供していきます。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	80%	13%	7%	常勤のクラス担任が相談しながら立案しています。内容によっては他クラスとの連携も行っています。	活動プログラムは常勤のクラス担任が立案しますが、日々の療育の振り返りを丁寧にを行うことで、立案時に非常勤スタッフの意見を取り入れ、チームで立案していきます。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	93%	7%	0%	ねらいによっては繰り返し行うこともあります。その日の利用児やグループ構成に合わせたプログラムを実施しています。	引き続き、子どもの発達段階やねらいに合わせて活動プログラムを提供していきます。

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 5 年 2 月 1 日 事業所名:多摩市ひまわり教室 配布数:16名 回収数:15名 回収率:93%

		チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	87%	0%	13%	「個が集まって集団を形成している」という考え方から、グループ活動においても、個々に応じた準備をしています。自立課題や1対1課題においては、個別的に行っています。 また、必要に応じて心理・ST・OTの個別又は小グループ療育を提供しています。	年に1回、個別担当者による評価を行い、個別療育の種類や頻度を決定しています。引き続き、それを踏まえたうえで、個別支援計画を作成していきます。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	80%	20%	0%	朝のミーティングで、クラス毎に活動内容とそのねらい、送迎やお預かりサービスの体制、事務連絡等の共有をしています。 非常勤スタッフが送迎担当の時は朝のミーティングに参加できないため、都度の伝達や朝礼ノート、伝言板を活用することとしています。	活動や食事の配置などは各クラスのボードを活用し、“見てわかる”工夫を継続します。朝礼での伝達事項は朝礼ノートを活用し、送迎後に確認してから支援に入るようにする事で、伝達漏れを防ぎます。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	60%	40%	0%	常勤スタッフ間は毎日実施しています。非常勤スタッフは15時までの勤務のため、14:45からの実施を心がけていますが、面談等によりできない場合もあります。	クラスノートを活用し、振り返りができない時は、気が付いたこと等を記載し、共有します。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	93%	7%	0%	個別支援計画策定後に、全スタッフ参加のケア会議を実施して、情報共有をしています。 日中支援記録は、個別支援計画の全項目と各項目のねらいとなるキーワードを予め個々に入れ、記載時にねらいに沿った支援の様子を記載できるように工夫しています。	後期より記録のICT化を導入しました。効率的に記録をとることで、支援の検証・改善に繋がります。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	73%	20%	7%	支援のPDCAサイクルを念頭に置き、半期ごとに担当者を中心に関係者から情報収集し実施しています。	引き続き、半期ごとにモニタリングを実施し、お子様の状態に合わせて計画を変更します。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	87%	0%	13%	全員セルフプランのため、計画相談はありません。 多摩市発達支援室と月1回の連絡会を開催し、情報を共有しています。 施設長、支援課長、各クラス担任1名と多摩市発達支援室職員で情報共有をしています。	引き続き、発達支援室との連絡会には施設長、各クラス担任が参加し、情報共有を図ります。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	87%	0%	13%	健康センター、子ども家庭支援センターとは、発達支援室と一緒に連携しています。 必要に応じて併用通園児の所属する保育園や幼稚園に行き、行動観察と支援の共有を行っています。	健康センターからの紹介で利用される方が多いため、年1～2回は情報交換会をしたいと考えています。 多摩市幼保小連携協議会に参加させていただき、市内の関係機関と情報共有を図りたいと考えています。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	40%	0%	60%	今年度は、医療ケアが必要なお子様は在籍していません。	今年度は、医療ケアが必要なお子様は在籍していません。

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 5 年 2 月 1 日

事業所名:多摩市ひまわり教室

配布数:16名 回収数:15名 回収率:93%

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
連携	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	33%	0%	67%	今年度は、医療ケアが必要なお子様は在籍していません。	今年度は、医療ケアが必要なお子様は在籍していません。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	93%	0%	7%	午前療育終了後の時間帯に定期的に所属園を訪問し、対象児の行動観察を行った後で、所属園の主任・担任等と情報共有、支援のアドバイスを実施しています。	所属園での午前中の集団活動参加時の様子が確認できる様、訪問時間の調整を検討します。
関係機関や保護者との連携	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	87%	0%	13%	例年、4～5月に就学先に訪問し、入学前に提出している申し送り資料内容及び入学後の様子を確認しています。	近年、コロナ禍により電話での申し送りになることもありましたが、感染状況を鑑み、できる限り訪問しての申し送りを行います。感染状況により訪問が難しい場合は、電話やオンライン等の方法で申し送りを行います。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	80%	0%	20%	法人内児童分野の事業所において、集合研修、職種別専門部会、連携会議等を開催し、学びを通して知見を拡げる機会としています。 また、東京都社会福祉協議会や多摩市児童発達事業所連絡会に所属し、地域課題や幼児期から学齢期の課題について意見交換や研修を実施しています。	コロナ禍でオンラインが中心となっていますが、可能な限り集形式にも参加をしていき、顔の見える関係作りを進めます。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	27%	60%	13%	集団同士の交流はねらいの定め方が難しく実施していませんが、年長児を対象に、年1回学童クラブと交流会を実施しています。学童クラブでは「お兄さん、お姉さんとしての関わり」をねらいに、ひまわりのお子さんの発達に応じた企画を準備してくれます。	学童クラブとの交流会に関しては、コロナ禍で中止が続いていますが、感染状況を鑑みながら、交流会を実施していきます。
	29 (目立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	60%	27%	13%	多摩市児童発達事業所連絡会の運営委員を長く担っています。	多摩市児童発達事業所連絡会の運営委員を長く担っています。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%	0%	0%	クラス懇談会、希望面談、送迎時、サービス提供記録票、メール、電話等でのやりとりを大事にしており、内容をスタッフ間で共有しています。	今後も継続いたします。
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	54%	33%	13%	新入園対象のST学習会を6回実施しています。 年3回の保護者会の中で開催する学習会はコロナ禍で中止が続いていましたが、令和4年度は実施しています。	年3回の保護者会での学習会は継続して実施します。その他、就学についての学習会などを企画します。
保護者への	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	87%	0%	13%	契約時に多摩市発達支援室が実施しています。大きな変更があった時は、保護者会で説明しています。	引き続き、保護者会等で丁寧に説明いたします。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	87%	0%	13%	面談前に個別支援計画の案をお渡しし、ご家庭で話し合っていたいたうえで、面談で意見交換をして完成させています。	面談の直前に個別支援計画案をお渡しすることが多くあります。面談の1週間～3日前までにお渡しできるよう、改善します。

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 5 年 2 月 1 日

事業所名:多摩市ひまわり教室

配布数:16名 回収数:15名 回収率:93%

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
説明責任等	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%	0%	0%	希望面談、送迎時、サービス提供記録票、メール、電話等でのやりとりを大事にしており、内容をスタッフ間で共有しています。	引き続き、希望面談等で保護者の方からの相談をお受けしていきます。また、適切な助言を行えるよう、研修や事例検討会、日々の振り返り等でスタッフのスキルの向上に努めます。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	100%	0%	0%	保護者会(全体会、学習会、クラス別懇談会)、運動遊びを楽しむ会の記念品作り、先輩ママの話を聞く会、パパ会等、コロナ禍の状況を判断しながら、計画、実施しています。	親子参加週間に、保護者の集まりやミニ勉強会等を企画し、保護者同士の繋がりが持てるように支援します。
保護者への説明責任等	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%	0%	0%	相談、意見、苦情等は、メール、口頭、面談、電話等の方法を周知しており、適宜対応しています。	引き続き、保護者からご意見・ご要望があったときは迅速に対応します。また、内容を発達支援室とも共有します。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	93%	0%	7%	新入園オリエンテーションで、事業内容書と入園のしおりを配布し、活動の内容とねらい、年間予定、連絡について等を口頭で説明しています。 また、毎月1回のひまわりだよりでは、ひまわりの様子、ご家庭での様子、予定等を発信し、活動の月案、特別支援療育予定は月1回配布しています。	引き続き、左記媒体により情報を発信していきます。
	38 個人情報の取扱いに十分注意しているか	100%	0%	0%	多摩市及び法人の個人情報保護規定に則り、対応しています。	引き続き、規定に則り、対応していきます。
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	93%	0%	7%	ひまわりだより、正夢通信を初め、サービス提供記録、メール、電話、面談等を実施し、情報提供や個別の意思疎通に配慮しています。	今後も必要に応じて、配慮を行います。
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	27%	60%	13%	受託事業のため、多摩市と連携しながら事業運営を行っています。	多摩市と連携しながら、地域住民に開かれた事業運営を検討していきます。
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	93%	7%	0%	各種マニュアルを策定し、都度職員に周知しています。	野外活動時の緊急又は防犯訓練については療育時間中には実行が難しいため実施していませんが、マニュアルの読み合わせ等を実施します。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%	0%	0%	避難訓練は毎月実施しており、年1回は保護者が災害伝言ダイヤルを利用して引き取りに来る訓練も実施しています。	今後も継続して行います。また、必要に応じてBCPを変更していきます。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	100%	0%	0%	入園時に健康状況調査票をご提出いただき、毎年更新をしています。資料は常にスタッフが確認できるように、整理されています。	今後も継続し、子どもの健康状況の把握に努めます。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	100%	0%	0%	入園時または発症時に、医師の指示書と保護者に依頼書をご提出いただき、適切に対応しています。	今後も継続します。

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 5 年 2 月 1 日 事業所名:多摩市ひまわり教室 配布数:16名 回収数:15名 回収率:93%

		チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の対応	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	87%	13%	0%	リスクマネジメント委員会作成の書式に、毎日の報告を記載し、月、半期、年間で集計と考察をしています。事例集の作成は、事業所単独では作成していませんが、毎月の会議で共有しています。	12月にリスクマネジメント研修を実施しました。また、グループに分かれて教室内の安全チェックも実施しました。スタッフのリスクへの感度を高めるために、月に1回危険予知トレーニングを実施し、安全な事業運営に努めます。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%	0%	0%	年に一回以上、虐待に関する研修やセルフチェック等を実施し、自分たちの支援を振り返る機会を設けています。	今後も定期的に実施します。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	53%	27%	20%	権利擁護委員会にて、身体拘束適正化についての指針を策定しました。事業所出入口は事故防止のために施錠をしているため、事業計画にその旨を記載しています。	身体拘束適正化委員会の開催、研修を実施し、スタッフの理解向上に努めます。